

第4期多摩区区民会議 第9回コミュニティ部会 摘録

□開催日時	平成25年10月29日(火) 午後6時00分～8時10分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	辻野部会長、大津委員、国保委員、小塚委員、戸高委員、本多委員、松本委員 (以上、コミュニティ部会員) 石橋委員(以上、自然災害部会員)
事務局	門間課長、奈良職員
コンサルタント	斉藤研究員
傍聴者	1名

1 審議にあたって

配布資料について部会長から説明があり、区民会議フォーラムの具体的な進め方について議論を行った。

2 審議

(1) 区民会議フォーラム

辻野部会長 区民会議について、事務局から説明してください。

事務局 コミュニティ部会は「地域に参加してもらいしかけづくり」、「コミュニケーション能力をはぐくむ」の二つのグループに分かれて話すことになった。「地域に参加してもらいしかけづくり」は、イベントカレンダーの作成、多様な趣味にふれあえるしかけ、農業の切口から地域の絆が生まれるしかけについて、「コミュニケーション能力をはぐくむ」は、あいさつ運動の展開について具体的に意見交換することが前回確認された。フォーラム全体としては午後1時半から4時までで、テーマ別意見交換会は2時から3時半までとなった。

イベントカレンダーについては参考として2か月に一回発行されている宮前区のものが添付されている。来年度から多摩区でもイベントカレンダーを発行する予算要求をしている。イベントカレンダーへの意見はいろいろいただいてよいが、来年度は年1回程度の発行予算は確保されると予想している。

多様な趣味にふれあえるしかけは、当初3月に行われる学びのフェアの参加を考えていたが、提言のまとめには間に合わないため、8月25日の市民館デーでのしかけを意見交換の材料とすることではどうか。

辻野部会長 3月にしかけを行っても報告書には間に合わないのよいと思う。

事務局 農業の切口から地域の絆が生まれるしかけについては、農産物を収穫しその場で料理し、食育、健康について学びながらふれあえるしかけをJAに提案しようという話だった。去る10月15日、部会長、副部会長とJAから出ている白井委員に話をしてもらった。11月2日の菅の里芋掘りイベントは、町会、JA、読売ランドの3つの団体が相互に協力して実施している。1年以上前から収穫体験の場所を地主と交渉し決めている。JAは農業者のための団体でコミュニティの観点はあまりない。JAに提案する場合は菅のように収穫体験する農地があることを確認したうえでやる必要があるという話だった。

辻野部会長 白井委員に質問したのは第一に菅のイベントを多摩区全体に広げることは可能か、可能だとすればどういうしかけをすればよいかという2点だ。白井さんの回答は生産農家や果樹農家を入れる場合は1～2年前から作業するので、すぐに収穫体験することはむずかしい。またJAに提案する場合は生産農家を具体的に特定した形でもちこまない

と先に進まないという話だった。今年度の区民会議で提案する場合、こういう形がありうると提案であって、はっきりいえば無理だという意見だった。今日その意見を部会で報告してもらおう予定だったが、都合で欠席となった。

大津委員 このテーマを取り上げられないということか。

辻野部会長 白井委員がからむことは無理だという話だ。

大津委員 こういうことができればよいというくらいの話は提案できるということか。これまで議論してきたので、なんらかの形で残したい気がする。

辻野部会長 こういうしかけができるとよいという内容は盛り込めるが、具体性に欠ける可能性がある。

大津委員 身近では子どものイモ掘り大会、有閑農地活用した麦づくりなどたくさんある。

松本副部会長 状況を聞くと農家も厳しいようで、担い手がいなくなる中でアイデアを採用する余裕がない。種まきのあと育成の手入れをしないと、収穫体験だけでは食育まで内容が深まらないだろう。そこまで準備するのはむずかしい。

本多委員 ふれあいのしかけも一回きりではだめで定期的にやれる仕組みを考える必要がある。運営を引き受けてくれる人がいないと提言しても実行されにくい。

松本副部会長 次の区民会議に引き継ぐといっても、委員の問題意識が異なればむずかしい。

国保委員 身近な事例の場合は、収穫体験がメインなのか。

事務局 いろいろあると思うが、収穫して持って帰るのが中心となるものが多い。料理まで進めているところは少ない。

国保委員 収穫体験を入れると農地と栽培する人の確保が必要となる。できたものをもちより料理と食育中心とし、収穫体験をなくすればふれあいのしかけ実現はむずかしくない。

辻野部会長 われわれのねらいは地域に根ざした絆の構築だから収穫体験が目的ではない。理想の形はここまでだが、各部分でもふれあいの意義はあるという提言もありうる。

大津委員 せせらぎ館、水辺の学校は魚を題材にふれあいのしかけをつくっている。鮎の最盛期に魚を獲るプロが指導者となり、親子連れがたくさんやってきて魚を獲り、世話役が火をおこして焼いたり食べたりする。

本多委員 以前畑を借りて農業をやろうと農業振興財団に相談や調査をした経験では、農地を人に貸す場合と空けておくのでは税金が違ってくる。空いているから人に貸すだろうというのは、大間違いだとわかった。収穫だけならばよいが、農地を使って生産までするとコミュニティの絆づくりの目的とは、ずれてくる。

辻野部会長 区民会議が提案する場合、農地と管理してくれる人をこちらで確保しなければいけない。

小塚委員 ままとんキッズはママカフェという食育講座をやっている。廃幼稚園の建物を利用して料理をつくり食育の話をしている。

松本副部会長 収穫を含めなくとも、身近で採ったものをもってきて、食育に関する話をしたり、おしゃべりしたりというのは良いと思うが、それで提案になるか。

国保委員 採れたばかりのものにかぶりつく、植物の中の酵素や水分が健康によく効くことがわかってきた。時間がたって煮たり焼いたりしたものは死んだ食物で栄養は10分の1に減る。生きているままをたべると人間は活性化する。

辻野部会長 石橋委員はどう考えるか。

石橋委員 コミュニティ部会は顔の見える地域に根ざした絆を構築することをめざしている。構築のしかけのひとつとしてイベントカレンダー、趣味、農業の切口があったが、食育がテーマではなかったと私は認識している。農業という受け手側が非常にむずかしいのであれば、提言はむずかしい。農業にしても商業にしても、受け手側が絆をつくること

に否定的で乗ってこないならば、それをひっくり返すような知恵を出せばよいのだが。
辻野部会長 戸高委員はどう考えるか。

戸高委員 当初は農業の切口がテーマだったが、食育と健康のテーマでなんとかならないか。
明大の本多教授が地域にしかけて小学校5年生の子どもたちが東通商店街で買い物をし
大学生と一緒にカレーをつくって食べている。商店街のナイトバザールでは大学生たち
が他の活動もやっているの、そこにも子どもたちが来てつながりが多様にでき始めた。
食と健康の話に切り替えてはだめだろうか。

辻野部会長 農業を切口としてという考え方を考えるわけか。

戸高委員 食育に重きを置き、たとえばゴーヤを題材にして親子食育教室を企画して、その食
材を多摩区の農業者から仕入れるのはどうか。そうすれば農業との接点も生まれる。親
子だけでなく、シニアの食育教室、子育てママの食育教育といろいろな年代の方々のふ
れあいをつくることができる。

小塚委員 講座の開催にもっていけば、実現性は高まる。以前子ども文化センターで鮭の卵を
育てて稚魚の放流をやっていた。農業にこだわらなければいろいろなことが考えられる。

国保委員 本来は地産池消をテーマにしなければいけないが。

松本副部会長 食育をテーマにすれば、魚でもお肉でも食材は広がる。

小塚委員 食育がでてきたのは、つい5～6年前だ。公民にも入っていなかった。親御さんの
子どもにもものを食べさせる力がなくなってきたから、食育のテーマがでてきた。

戸高委員 核家族になり、お母さんが仕事をもって大変になってきて、朝ご飯を食べない子
どもたちが出始め、社会問題になってきた。

小塚委員 子どもの一人ご飯しかもジャンクフードで食事を済ませている孤食問題だ。

国保委員 食えることがコミュニケーションの一番最初の大事な点だ。それをふれあいとして
広げていけばよいの。

辻野部会長 この話題をアレンジして提言まで持っていくか、それともここで切ってしまうか
結論を出したい。

コンサル 切口を変えるときに問題になるのは誰がやるのかという点だ。あちこちでやって
いる活動に食育の視点を加えてほしいという内容にするのか、それとも区民会議独自の新
しいしくみのしかけまでを考えるのか。

国保委員 提言にしなくてもこのような話があったという形でもよいのではないか。

戸高委員 もし部会の当初にこのような議論ができていれば、すでにやっている活動に対して
どうする、新しくやるにはどうするという話ができただかもしれない。いま、農業を切口
に行うのがむずかしいことがわかって、今から出発点に戻って提言まで持っていくのは
むずかしい。国保委員がいうように、食育と健康が地域のコミュニケーションの場にな
るはずだという内容でまとめることも、ひとつの方法ではないか。

松本副部会長 新鮮な食べ物の健康への効果がわかったし、肉や魚は地産池消というわけには
いかないが、野菜は可能かもしれない。

辻野部会長 もし白井委員の意見がもっと早く聞くことができれば実践につながる議論が進ん
だと思う。ここで方向転換が無理だが、命題として掲げておくこととする。

松本副部会長 命題として掲げるにしても食育や健康がコミュニケーションにつながることを
おさえておかなければいけない。

コンサル フォーラムの意見交換の中では農業の切口のテーマをどのように扱うか。資料案は
どのように変更するか。

石橋委員 ふたつの〇に入っている意見をひとつにし、JAに提案するという語句を変更し、食
育と健康について協議してきたとすればよいだろう。あるいは、多様な趣味にふれあえ

るしかけの中に入れ込んで、料理も趣味として扱う方法もある。

戸高委員 この問題は部会で検討中でフォーラムで意見交換をしないという考え方もできる。

辻野部会長 フォーラムでは提言の形ではまとめないが、こういうことを追及してきましたと触れるだけにする。

大津委員 議論してきたとの報告だけに留めるのでは、フォーラムにぶつける意味がない。話題を出せば意見がある人がいろいろいい出し、ややこしくなる。

戸高委員 フォーラムは提案に対して意見をうかがう場だ。このテーマについて提案を出さないならば、提案をだすこテーマについて意見交換の時間をとるほうがよい。

本多委員 それであれば、資料からもはずしたほうがよい。

国保委員 しかし大事な問題だから、集まった区民のみなさんのこのテーマに関する意見をうかがいたい。

石橋委員 私も、農業という切口でふれあいのしかけをつくりたいと議論してきたが、みなさんはどうでしょう、アイデアがあれば聞かせてくれと問いかけることに賛成だ。

国保委員 委員だけの問題にせず意見をもらいたいと問いかける方が私はよいと思う。

本多委員 意見をもらってもそれをどうまとめるかのわれわれの責任が出てくる。

国保委員 意見が出たら、すばらしい意見だと受止めればよい。

石橋委員 もしかすると提言につながるわれわれが考えてもいなかったような案が出てくるかもしれない。あまり先まで読まずに、最後の最後にそれをどう料理するかを決めるのは行政なのだから、意見をうかがうことに神経質になる必要はない。

事務局 区民会議の趣旨はさまざまな団体から委員が出て、やれることを各団体が一緒にやっていくことにある。行政も責任をもつが委員の皆さんにも責任があることを確認したい。

辻野部会長 フォーラムの目的は、第一に委員が取り組んできた状況を会場の皆さんに周知する。二つ目にそれについて会場の皆さんと意見交換をする。三つ目にその意見の中で提言に取り入れられるものは取り入れる。それを前提として、農業を切口としたテーマを、会場に問いかけ、よい意見が出たらそれを報告書に盛り込む。それはフォーラム目的にかなっている。

事務局 区民会議は意見の言いつばなし聞きつばなしではなく、誰がそれをやるかという実現にまでつなげることが目的だ。これまでの議論では具体的な提言にならないという感じだったが、さまざまな団体が行っている活動に食育と健康の視点を入れるという点をまとめれば、提言として位置づける可能性もありうる。提言にしなければ、意見を聞けないということまで考えなくてもよい。

松本副部会長 会場からはいろいろな意見・情報が出てくるとは思う。しかしそれらはすぐ具体化できないかもしれず、われわれとしてはもう一年くらいきちんとつめておきたい。意見を聞きたい気持ちはあるが、それをどうするのかのイメージがもてない。

小塚委員 私の農業の切口からのイメージは、農地に農家カフェがあって、そこで農業の現状もわかり、農作業のコーチングもしてくれ、取ったものをその場で食べることができ、講座も開かれるというもの。そういうところまで提言できるか。そこまでもっていくには時間が足りないか。

辻野部会長 議論はつきないが結論をだそう。フォーラムにこの話題は出さないほうがよいか、出したほうがよいか挙手をしてほしい。3対3だから、手を挙げていない戸高委員の意見で決まる。

戸高委員 迷っている。

辻野部会長 迷っているときは前向きに進んだ方が正解だと思う。会場からの意見を求めることにしてはどうか。もし区民の意見としてこういう方向を支持する声がたくさん出るの

であれば、このテーマを来期も検討する方向でまとめる証左となる。もし、出てこなければわれわれは考えたけれど、他で十分こなされているからその必要はないと考える。

本多委員 もし会場にこのテーマを投げかけるのであれば、どういう考え方で投げかけるかを考えておく必要がある。これまで十分に検討できていないのだから、私はフォーラムで出さない方がよいと考える。

大津委員 内容を説明することになると、JAの事業として進められないかと考えたが、JAではむずかしいことがわかったことにふれざるをえない。将来うまいしかけができて、JAで可能になるかもしれない。それを想定すると、私はそこにふれないほうがよいと考える。

松本副部長 菅の場合は対応してくれる地主さんがいて町会が入って、JAも協力してくれ、区とよみうりランドも関わるといふ形がたまたまかもしれないが、生まれた。将来何かやるときにもJAは関わってもらわざるをえない。今回はそこまで詰めきれなかったが、このテーマに関する意見は聞いておきたい。そこをどうするか。

国保委員 フォーラムで聞いた意見をどのように扱うのか。その意見にひとつひとつに回答を出さなければならぬのか。それらの意見を次につなげるということではだめか。

松本副部長 次につなげるといっても、その期の委員の意識の優先順位があるので、つながらない可能性はある。

事務局 フォーラムで出た意見は報告書の中に載せる。提言につながらなくても、記録としては残る。

国保委員 意見をいった人に対して、聞きっぱなしでどこにも残らないのなら失礼だが、報告書に残るのであれば、聞くことが失礼にはならない。

辻野部長 出してもらった意見は報告書には載せるし、次に引き継ぐという報告をフォーラムでできるか。

石橋委員 私はフォーラムで会場からの意見を聞きたいという立場だから、資料19頁のふたつの○はひとつにし、多摩区らしい絆づくりとして農業分野でのふれあいの可能性を検討した。農家との意見交換から、活動範囲については今後十分に詰める必要があるという文章にして、意見があるかどうかを聞き、ないといえれば終了にしてはどうか。

本多委員 このテーマは十分に検討していない。白井委員が出席して具体的な検討はなにもしていないのに、検討したとするのはおかしい。

戸高委員 検討した結果、むずかしいことがわかって、食育や健康という側面から取り組もうとなったのが今日だということだ。

大津委員 石橋委員が提案した検討したという言葉が問題であれば、話題として協議したにすれば実態に合う。そのようは説明をして、集まった人にどうですかと問う。

事務局 そのように文章を直して、意見を聞くことにする。それに関連して11月2日の菅町会の里芋掘りが迫ってきている。これに事例研究として参加するかどうか。

辻野部長 フォーラムで取り上げるのなら出た方がよい。私は参加する。

戸高委員 私も参加する。

辻野部長 では私と戸高さんの2名が参加して実態を見学する。

事務局 主催者に参加について調整することにする。参加者アンケート案はどうか。

石橋委員 アンケート質問の中で、楽しかったかどうかを聞くのはどうか。楽しくなかったと答える人はいないだろう。

大津委員 この質問は取りやめた方がよい。

本多委員 もし聞くのであれば、次はどんな食材がよいかを聞いてはどうか。

事務局 アンケートは、楽しいかどうかの質問をとりやめ、次にやってみたい収穫体験はなにかという質問に変えて、主催者に願います。

辻野部会長 次の議題としてあいさつ運動の展開について協議する。

事務局 資料はこれまで出た意見を併記する形にしている。司会進行は本多委員が行う。

本多委員 わかりました。

事務局 資料には最後にフォーラム参加者へのアンケートが入っている。

石橋委員 質問3の他の地域課題がよかったの選択肢のあとには〔 〕を入れて、地域課題が書けるようにしたほうがよい。

事務局 そうする。

石橋委員 委員の集合時間は何時か。

事務局 フォーラム開始は午後1時半なので1時の集合となる。

本多委員 事前の打合はしなくてよいか。大きな会議のときは当日15分でもよいから打合時間をとるほうがよい。

小塚委員 パワーポイントはやるのか。

事務局 全体会ではパワーポイントを使うが、部会では使わない。

本多委員 会場設営はどうするのか。

事務局 前日に行う。当日の設営は確認のみになる。

松本副部会長 当日打合したほうがよいことがあるか。

本多委員 大きな会議では必ずといってよいほど、いろいろ出てくる。

松本副部会長 資料の会場設営図を見ると、司会や委員はどこに座り、開場参加者はどこに座るのがわからない。

辻野部会長 私がコミュニティ部会の説明をするときには、どこでやるのか。

石橋委員 現案では部会の検討経過の説明はグループ討議に入ってからになっているが、参加者の共通認識を得るために、全体会の方に織込んだほうがよい。そのあとテーマごとのグループに分か、テーマについての説明を進行役が行う。

コンサル 各部会の検討経過の説明を全体会に入れれば、他の部会に参加する人にも、全体の問題意識がわかってよい。

辻野部会長 そのほうがやりやすいと思う。

事務局 そのように変更することにする。当日の流れを再確認すると全体会では主催者あいさつ5分、次に第4期多摩区区民会議概要10分、本日の進行方法の説明5分。そのあと移動で10分。いまの話ではコミュニティ部会と自然災害部会の報告を全体会に入れる。報告時間がそれぞれ10分とすると全体会が20分延びることになる。

石橋委員 最初から自分が参加したいグループに分かれて座って全体会を聞くことにすれば、移動の10分が省ける。受付の最初にどのグループに入るか決めてもらえばよい。

事務局 机の上にテーマを大きく書き出しておいて、興味のあるところに座ってもらえば移動時間は必要なくなる。

小塚委員 座席は後で興味の湧いたところに移動はできないのか。後で移動も可能となれば、最初に座るところがスムーズになる。

事務局 基本的に移動を制限はできないだろう。

石橋委員 グループ討議は本来自分の意見をいったら、そのことに関する他の人の意見も聞いて議論を深めていくことが大事。自分の意見をいったら興味あるから隣のテーマに行くのでは、ルール違反ではないか。

本多委員 最初は自然災害部会に座ったが部会長の話を聞いたら、コミュニティ部会に行きたくなるひともいるかもしれない。

事務局 受付後に最初とりあえずは座ってもらい、部会長の説明を聞いた後に、いまの説明を聞いて移りたい人は一回移動してもよいことにする。

辻野部会長 グループを変りたい人は勝手に変わるだろうから、わざわざ事務局からいう必要はない。グループ替えの話題を出す会場がざわざわしてしまう。移動してもよいかと聞かれたら、よいというくらいでよい。

松本副部会長 それでよいと思う。

大津委員 主催者あいさつは多摩区民会議概要の説明と重なる可能性が高いので、1分程度にしたい。

事務局 タイムスケジュールは大まかなもので、きっちりでなくともよい。

国保委員 多様な趣味とのふれあいだが、市民館やいこいの家などでやっている趣味の活動についての現況データがもらえるとよい。グループ討議ではいつどこでどんな趣味活動をやっているかという質問がでるだろう。わかる範囲でよいから聞かれたら一定程度の回答をするために、個人的資料として用意しておきたい。

事務局 市民館の趣味的な活動について調べておく。

本多委員 資料18頁のイベントカレンダーに載っているイベントの掲載基準は何か。ドンド焼きは菅の方がもっと大々的にやっている。また、祭りの正式な名前など書かず、夏祭りとか漠然としたものにし、正確な時期や開催場所なども書かない方がよいと思う。

辻野部会長 町会にアンケートを取る内容は祭りの名前、実施時期、開催場所、誰でも参加できるのかなどについて書いてもらおうとしていたので、この内容が入るのはよいと思う。

小塚委員 その地区の祭りはその地区の人に価値があり、楽しむものだから、菅の方が祭りとしては本格的だからそれを載せようというのは、イベントカレンダーの趣旨とは違う。これは例であって、これから内容も発行時期も検討し、多摩区内のイベントであればなんでも載せたいのだと説明すればよい。

石橋委員 この資料は意見交換をするためのひとつの材料だという。この祭りがメインであるとか、にぎやかだから載せることが作成の趣旨ではなく、どこで何が行われているかを示すことをカレンダーとしてやれないかという視点が最初からの定義だった。

大津委員 誤字をいうと、サイの神はセイの神が正しい。消防始式は消防出初式だ。

コンサル 例を挙げていることがわかるように、各月のイベント例の下にもっとはいることを意味するカラの行を入れるようにする。

辻野部会長 今日はこれで終了とする。

(2) その他

- 事務局から、平成26年1月22日(水)18:00～中原区役所実施の区民会議交流会の出欠確認があった。

2 スケジュール

- 第4回企画部会 11月7日(木)18時～
- 第6回全体会 11月12日(火)18時～

以上